

オオコノハズク

Otus lempiji (Horsfield)
フクロウ目・フクロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

夜行性であまり鳴かないため、野外調査ではなく、傷病鳥救護でその存在を知ることが多い等、現状把握が十分にできていない。本種は夜間の食物連鎖の上位に位置する種であり、生態系の健全性を評価する上で重要な種である。

種の特徴

全長 23.5 ~ 26 cm で、雌の方が少し大きい小形のフクロウ類である。体は、褐色・灰白色・黒色の複雑な細かい虫食い斑で、後頸には襟状の灰褐色の斑紋がある。橙色の虹彩が目立つ。小形哺乳類、小鳥類、両生・爬虫類、昆虫類や多足類等の節足動物を捕食する。

分 布

北海道では夏鳥、本州以南では留鳥として、低地～山地の林に生息・繁殖する。本県の記録はブナ林や社寺林等の樹洞のある林に点在し、秋季には丹生山地等を渡る。

生息を脅かす要因

樹洞のある深い森を好むため、大径木のある森林の保全が必須である。また夜行性で目立たない小形種であることから、人知らず消えていく可能性があり、生息の可能性のある森林においては、センサーダラマや音源等を導入した定期的な生息確認調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○						○	○		○	○	○	○	○	○	○	○

コノハズク

Otus sunia (Hodgson)
フクロウ目・フクロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

過去に本種の生息記録があった場所でも鳴き声が聞けなくなっていると推察される。奥山に生息し夜行性のため、生息状況の把握は困難であるが、良好な森林生態系に生息するため、生態系の健全性を評価する上で重要な種である。

種の特徴

全長約 20 cm で、日本産フクロウ類中、最小種である。姿は灰褐色で目立たないが、「ブッキヨクコワー」と大きな声で連續して鳴くため、声の「ブッポウソウ」として有名である。夜行性で主に昆虫類を捕食するが、ミミズ、カエル類、トカゲ類、小形哺乳類等も捕える。

分 布

夏鳥として九州以北に渡来し、奥山の大木のある林で営巣する。本県では、奥越や南越のブナ林等で鳴き声を聞くことが多い。また、秋季には丹生山地等で渡り個体が確認される。

生息を脅かす要因

樹洞のある深い森を好むため、大径木のある森林の保全が必須である。また夜行性で目立たない小形種であることから、人知らず消えていく可能性があり、生息の可能性のある森林においては、継続的な鳴き声調査を行う等、モニタリング体制の構築が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）、叶内ら（1998）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○	○	○			○	○			○		○	○	

トラフズク

Asio otus (Linnaeus)
フクロウ目・フクロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

田園生態系の食物連鎖の上位に位置する種である。また初版レッドデータブック以降の記録は数件未満と大変少ない。ただ、夜行性のため、調査が十分とはいえない。

分 布

本州中部以北の林で繁殖し、本州以南で越冬する。本県ではこれまでに、九頭竜川周辺の林での越冬ねぐら形成例や死体回収例があるほか、北川でも目撃例がある。

生息を脅かす要因

河川敷内の草地の減少に伴うネズミ類の減少が挙げられる。また、フクロウ類は野鳥カメラマンの撮影対象として人気があることから、インターネット等による生息情報の拡散は、静かで落ち着いた生息環境の消失を招く。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○						○						○